

## 照葉樹林帯の人たちは花好き

司会 琵琶湖博物館では七月十七日から、植物の繁殖戦略を主題にした企画展示「のびる、ひろく、ひるがる 植物がうごくとき」を開催します。江戸の園芸・平成のガーデニング（小学館）という御著書もあり、園芸の専門家であるだけではなく、文化史にもたいへん詳しい小笠原さんに、館長川那部との対談をお願いしました。

川那部 前回の「うみんど対談」の中で、お相手の方が「動物園や水族館の観客の多くは、動物がとにかく動いているだけで満足して、どう動くかなどには興味がないようにしか見えない」という逆説を出されました、そうかも知れないと思っただけがあります。今年の企画展示ではそれとは逆に、植わっているとはいっても、植物も、時間をかけてがさままさに動くこと、その面白さを示したかったわけです。

園芸というのは、その個体はあまり動かないが、植えて持ち運べる植物の利点を、大いに活かしたものです。江戸時代には園芸がたいへん盛んで、海外から日本列島へやって来た人々も驚いていたようですが…

小笠原 世界中、いろいろなところへ行かせて頂きましたが、どうも一般に照葉樹林帯の人々が、花が非常に好きそうですね。

アフリカでは、山のように花があつて、「持って帰ってええよ」と

と言っても、持って帰らない。サボテンを家の周りに植えるようなことも、ほとんどないようです。ヨーロッパも、生活の進歩によって花と付き合うようになってきたという感じで、根っからの花好きじゃないように思えます。

それに対して東南アジア、とくにタイ・ラオス・中国の境界近くでは、バラックのような家にもランを、枝に絡ませてぶら下げたり、欠けた茶碗のようなものにちよつと植えたり、いろいろしているんです。どちらかというと花の少ない照葉樹林帯の中で、逆に、草本性の花を身近なものに取り入れていき、幅が広がってきたのではないかと、想像しています。

## 江戸の園芸は上方に始まる

川那部 江戸時代に園芸が開化したといつても、それ以前から花はいろいろに賞でられてきていますね。

小笠原 ウメは奈良朝にはすでに入ってきていました。この外来植物のウメを、日本にあつたサクラ以上にいわばあこがれて、大事にしたようです。菅原道真つまり天神さんのウメ好きは、良く知られています。

御所も昔は、「右近のタチバナ、左近のウメ」だったんです。九六〇年でしたか、御所が燃えて植え替えたときには、それはサクラだったんです。

川那部 ウメとタチバナの対はいいですね。匂がよるしい。その点ではサクラは、格段に落ちます



# 植物を楽しむ

## 園芸文化の過去と現在

2004年7月6日(火) 琵琶湖博物館館長室にて  
司会進行 / 布谷知夫

江戸時代から、穀物でも園芸でも、品種作りが盛んだったのです。



琵琶湖博物館館長  
川那部 浩哉

ね。平安朝の物語や随筆には、香りに関する素晴らしい感覚が判ります。

小笠原 『古今集』にしたって、『新古今』にしたって、花の歌をはずしたら、どんな歌が残るのか。ほとんど残らないでしょう。

川那部 ええ。連歌や連句なども、月と花には定座（決められた句の位置）がありますものね。花とはサクラに限っています。

小笠原 上方で積み重ねられてきた、園芸品種だとか習慣だとか技術だとか、新開地である江戸へ一気に流れて行ったのです。そのいちばん元には、家康・秀忠・家光という徳川家の最初の三代の將軍がいました。この三人みんなが花好きだったのです。

家康は、最初はあまり花好きではなかったようですが、林羅山が長崎で中国の『本草綱目』一式を買ってきて、それを家康に献上したんです。家康はこれを座右に置いて、最後にはお薬まで自分で作って、いわばハーブ研究家にな

つちやっただんです。

川那部 江戸の花好きは最初の三代の將軍から始つたとしても、その趣味が広く侍や町人に広がつたのは、江戸時代の最初からなのでしょうか。

小笠原 初期はまだ、上方が断然優れていたようです。一七三〇年ごろ、年号でいうと正徳・享保あたりまでは、江戸は上方に劣っていたと思います。

川那部 たしかに芝居や小説も、江戸のほうが盛んになるのは後半からですね。

小笠原 その点でも江戸の園芸というものは、長い伝統がありかつ江戸時代になつても発達し続けていた上方のものを受け入れて、ぱつと見事に発展させたものといえ

るでしょう。

### 図譜から探るさまざまな品種

**司会** 御本で見たのですが、江戸時代には、いろいろな園芸植物にたくさん品種があったのですか。

**小笠原** 『椿花図譜』と呼ばれているものには、サザンカー八種を含めまして、七二〇のツバキの図が載っています。有名な安楽庵策伝の『百椿図』は、名の通り一〇〇の品種について、言葉で解説したものです。

ツツジも、江戸初期に落成した詩仙堂（京都市）にもあるように上方が元でしょうが、関東ロームの土壌に良く合ったと見えて、元禄時代になると江戸でツツジブームが起きます。キクも上方からです。ブームは、最初樹木から始めて、キク・ボタン・シヤクヤクなどの宿根草に移り、それからアサガオのような一年草になる。

**川那部** 朝顔市は、今も東京では盛んですか。これはそもそも江戸から始まったものですか。

**小笠原** アサガオについては、一家言持っておりまして。ブームは文化・文政からなのですが、その七〇年ほど前に尾張名古屋の藩士三村森軒が『朝顔明鑑鈔』というのを書いて、二〇〇ぐらいの品種について解説しているのです。だから私は、アサガオは名古屋が発点だと言っているのです。

### 絵図面からバイオ技術へ

**川那部** 穀物でも園芸でも、品種

作りが盛んだったのですか。

**小笠原** そうなんです。しかし字で書いた本は、識字率の低い一般庶民には、なかなか読めないわけですよ。そこで江戸後期には、『草木種選び男女の図』なんて、変な意味にもとれそうな刷り物が出てきます。

例えばダイコンについて、お尻が少し丸いのと、すっとこけたのとを並べて画いて、すつと細いのを男、ちよつと尻の太いほうを女だとして、たねをとるには女のほうからとれ、と書いてあります。またイネの場合は、穂のいちばん下、根元に近いほうに枝が両側に二本出ているのと、片側しか出ていないのがある。一本のは男で、二本のは女だから、これも女のほうのたねを選べ、と言っわけです。

**川那部** なるほど。

**小笠原** 一種の系統選択ですよ。おナスもやっぱり、ひよろつとしたものより下ぶくれのものを、徹底して選び続けてきた人があるのではないのでしょうか。この典型が京都の賀茂なすなのです。

こういう掛け合わせや選択は、特別の人がやっていただけではなくて、みんながやってきたよつです。先に申した『朝顔明鑑鈔』にもすでに、「変態百出して」とありますが、そのちよつとした変わりを見逃さずに、ぴゅつとつかんでいったんですね。その結果、珍無類の花が出来ます。

こつというのはアサガオだけではありません。在来のカワラナデシ

## 談対長館

コと中国からきたセキチク、それにオランダから渡来したカーネーションとを混血させた伊勢撫子は、花びらの長さがなんと三〇センチ以上になります。

**川那部** 動物にも、尾長鶏やランチョウのようなものがありますね。

**小笠原** 秋でなく夏に咲くキクとか、四季咲きのカキツバタなども、まだきつちりとは調べていないのですが、室町時代からあったよつです。

ただ最近までは、変異を固定させるのには、それなりの時間がかかってきた。それに対して現在は、園芸植物でもなんでも栽培植物の大部分は、バイオ技術によって繁殖させることができるようになりました。それなりの費用はかかりますが、一度に何万でも何十万でもできるわけですよ。

### 江戸の園芸、今のガーデニング

**川那部** 江戸時代のそういつた園芸と、今のいわゆるガーデニングとを比べてみて、小笠原さんは、どんなふうにお考えですか。あるいは、どうお感じでしょうか。御本にも少しありましたが…。

よだと思えます。花を見ることが非常に楽しいという、その気持ちが変わらないと思えます。ただ現在は、自分で努力しなくても手に入る、あまりにも安直に手に入りすぎます。

それが良いと思うのか、やはりあこがれて、待ちに待ち、願いに願って、やつと手に入るといふ、そういう経緯が価値だと思うなら、いまは非常に不幸な時代ですね。江戸時代には、そんなに安直には手に入らなかった。それは私たちの子どもころまで、ずっと続いていました。先輩を何度も訪ね、やつと教えてもらい、苗を分けて頂いて、やつと花が咲いたものです。

以前は、作ることの楽しさがありました。今は、わずかなお金をいせば揃います。買ってきて植えるだけで、ガーデニングとして楽しめる。

しめる。便利になったことは確かですが、便利が即幸せかといふと、違つかもしれない。ちよつとひねくれているかもしれませぬけれど…。だから、いまは不幸な時代だともいえるし、あるいは、非常に低い経済価値で、世界の名花をみなさんが目の前で楽しめる良い時代だ、といえるかもしれませぬ。

愛知豊明花き流通共同組合理事長

### 小笠原 亮氏

1933年愛知県生まれ。京都大学農学部古曾部園芸場を経て、名古屋園芸株式会社を設立。1996年、豊明花き株式会社代表取締役就任。実務の傍ら、執筆・講演などを通じて園芸普及に努めている。自宅に江戸の園芸古文書を集めた雑花園文庫をもつ。『新しい観葉植物』（日本放送出版協会）など著書多数。



願いに願って、やつと手に入るといふ、

そういう経緯が価値だと思つたら、いまは非常に不幸な時代ですね。